

# 登録しよう 防災メール

町では、防災気象情報を皆さんの携帯電話やスマートフォンなどへ電子メールでお伝えしています。

役場からの防災情報をいつでもどこでも迅速に受け取れるように登録をお願いします。

登録は右の「登録手順」から簡単にできます。

※迷惑メール対策をしている場合は、メールを受け取れない場合があります。  
@town.tobe.ehime.jpからのメールを受信できるように設定してください。

## 〈砥部町メールマガジン登録手順〉

- ①下記の URL にアクセス  
<http://www.town.tobe.ehime.jp/mailmaga/>
- ②メールマガジンの新規登録をクリック
- ③配信を希望するメールマガジンの内容（防災メール配信の場合は「行政・災害情報」）を選択し、「メルマガ決定」をクリック
- ④配信先のメールアドレスを入力し、「決定」ボタンをクリック
- ⑤登録手続き完了の「登録確認」メールを受信したら、24時間以内にメールに記載された「リンク」をクリックして「登録」ボタンをクリック
- ⑥登録完了

## 避難情報の名称が変更になりました

平成 28 年の台風 10 号の水害では、岩手県の高齢者施設で「避難準備情報」の意味が伝わらず、適切な避難行動がとられなかったことにより、多くの犠牲者が出ました。

このことを踏まえ、内閣府では高齢者等が避難を開始する段階であることを明確にするなどの理由から、避難情報の名称が次のとおり変更されました。

今後、町から避難情報を発令する場合は、新しい名称で発令します。

変更前	変更後	みなさんの行動
避難準備情報	避難準備・高齢者等 避難開始	高齢者・障がい者・幼い子どもなどの避難に時間がかかる人は避難を開始し、避難行動要支援者の家族や近隣協力員は避難のための支援行動を開始してください。それ以外の人は、家族との連絡、非常持出品の用意など、避難の準備を始めてください。
避難勧告	避難勧告	できるだけ早く予想される災害に対応した最寄りの避難所に避難を開始してください。 外が危険な場合は、屋内の高いところに避難してください。
避難指示	避難指示（緊急）	緊急に避難してください。 外が危険な場合は、屋内の高いところに緊急に避難してください。

※いずれの場合も、避難所への避難はかえって命に危機を及ぼしかねないと自ら判断する場合には、近隣のより安全な場所・建物などへの避難や、少しでも命が助かる可能性の高い避難行動をとってください。

☎総務課危機管理係（962）6110

# 災害への備え

## あなたは 大丈夫？



5月20日、消防団が、大雨災害に備えて水防工法訓練（積み土のう工）を行いました。

町で  
想定される  
主な災害は

## 大雨災害

重信川や砥部川、玉谷川などの河川や水路の氾濫などが起こる恐れがあります。



洪水・内水氾濫

ここを 確認！

- ・日頃から気象情報の確認をして発生を予測
- ・雨風が強まってきたら、避難情報を確認

## 土砂災害

町には傾斜が急な山があり、台風や大雨により、がけ崩れや土石流などの土砂災害が発生する可能性があります。



土石流

ここを 確認！

- ・普段から危険な場所を確認
- ・前ぶれがあれば、早めに避難

## 地震

地震はいつ発生するかわかりませんが、今後30年の間に70%の確率で南海トラフ地震が起こるとされています。



崖崩れ・地滑り

ここを 確認！

- ・まずは自分の身を守ることが優先
- ・常に「もしも今地震が起きたら」を考える

# 避難所運営に備えて訓練を実施



町では、6月の土砂災害防止月間に合わせて、毎年、各小学校区単位で「土砂災害防災訓練」を開催しています。

今年も、6月4日、ひろた交流センターを会場に、広田小学校区の住民、防災士の皆さん、町職員を対象に開催し、43人が参加しました。

訓練では、避難情報の種類や避難所の運営について講習を受け、その後医療技術大学災害医療系サークル「医技タット」の学生を講師に迎え『避難所運営ゲーム（HUG）』を行いました。

## 【HUGとは】

災害発生時の避難所運営を、みんなで考えるひとつのアプローチとして開発されたもので、避難者に見立てたカードをどう図面に配置していくか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。

## 「みなさんもHUGを体験してみませんか？」

町では、自主防災組織や団体の皆さんにHUGを体験していただき、災害への意識を高めていただけるよう、HUGセットを購入しています。

HUGを体験したい人、またその他の訓練を実施したい人は、総務課危機管理係 ☎（962）6110へ相談ください。



**西岡亮祐さん（満穂）**  
災害時は、町の職員さんも人手が足りないかもしれません。そんな時に、地域住民が中心になって避難所運営を行うなど、いざという時に行動できるようにしておくことが大事だと感じました。  
今日学んだことを、地域の皆さんと共有していきたいと思っています。

**尾崎夢さん  
（医療技術大学災害医療系サークル「医技タット」）**  
今日は、避難所運営ゲームの講師をさせていただきました。せっかく地元にある大学なので、私たちの勉強したことを地域に還元させていただいて、今後も地元の人とつながりの持てる活動をしていきたいと思っています。

